

支 援 事 業
報 告 集



愛芸アシスト

愛知県立芸術大学を支援する会

2013
年度



愛芸アシスト会員の皆様へ

いつも温かなご支援をいただき、また、演奏会・展覧会などに積極的に足をお運びいただきありがとうございます。皆様からいただきました活動資金のみならず、一人一人の方々の意思・意欲の集合が大きな輪になって愛知芸大の創造性を活性化させ、同時に、皆様の内的世界がより充実し日常生活が豊かになることを願っております。

愛知芸大は平成28年に創立50周年を迎えます。その間、長久手市でのオペラ公演、愛知県美術館での卒業・修了制作展の開催など、一貫して公立大学の使命である地域への貢献、地域密着型の運営に取り組んでまいりました。今後もこの方向を堅持し、将来につながる成果をあげていきたいと考えております。同時に、愛芸アシストの支援事業でも、地域における芸術文化の創造活動の拠点として愛知芸大を物心両面から支援し続けていきたいと考えております。

本冊子を作成するのは、昨年度に引き続き2年目です。構成は昨年度と同じで、前年度の支援事業の写真・解説付の報告と、本年度の支援事業の紹介です。昨年度の冊子は、皆様方から大変なご好評をいただきました。「私達の支援がどのように愛芸アシストで利用されているのかが、文字情報だけではなく、写真で提示されており大変わかりやすい」、「支援の対象になった事業を担当している教員や学生の“生の声”を聴く事ができ、たいへん嬉しかった」などの声をお聞きいたしました。同時に、昨年ではなくもっと早く会員の方々にこのような情報の提供を始めるべきだった、との反省もしております。

ご意見などがありましたら、大学や栄のサテライトギャラリーの愛芸アシスト事務局にお送りください。皆様からいただいたご支援のより有効な使い方をわたしたちも真剣に考えていかなければなりません。どうぞよろしく願いいたします。

会長 松村 公嗣

- 01 オペラ公演「こどもと魔法」
平成25年12月7日(土)、8日(日)
長久手市文化の家
- 02 愛・知・芸術のもりから
平成25年6月～平成26年3月(毎月1回開催)
SMBCパーク栄
- 03 愛知県立芸術大学サテライトギャラリーでの展覧会支援
平成25年4月～平成26年3月(展覧会開催回数18回)
サテライトギャラリー
- 04 芸術資料館収蔵品展「ON — 色は匂へと colors of note」
平成25年5月9日(木)～6月12日(水)
愛知県立芸術大学芸術資料館
- 05 小演劇・演奏・画像で表現する西欧文芸「エルサレム解放の夕べ」
平成25年10月30日(水)
千種文化小劇場
- 06 愛知県立芸術大学国際交流展「NANAIRO —なないろ—」
平成25年7月20日(土)～9月8日(日)
サテライトギャラリー、芸術資料館、瀬戸内国際芸術祭会場
- 07 学生への公募
7件(美術学部・美術研究科4件、音楽学部・音楽研究科3件)
- 08 展覧会イベント(ギャラリートーク・学生支援行事)の開催
平成25年9月20日(金)、平成26年3月8日(土)
サテライトギャラリー
- 09 芸術祭での講演会
平成25年11月2日(土)
愛知県立芸術大学 新講義棟
- 10 干支展
平成25年11月16日(土)～11月24日(日) / 11月15日(金)愛芸アシスト会員向け内覧会・懇親会を開催
サテライトギャラリー

01 オペラ公演「こどもと魔法」



オペラ公演は、単に音楽学部・音楽研究科による成果発表ではなく、毎年、持ち回りで担当している美術学部・美術研究科（本年度は、デザイン専攻）による舞台制作という、総合芸術大学である本学の力を結集した一大イベントであり、一年間の教育・研究の総仕上げの場になっています。

平成25年度は、モーリス・ラヴェルの「こどもと魔法」を取り上げました。動物、昆虫、木々、小人、不思議な椅子などが登場する魔法の世界に、地元の子ども達のみならず、多くのおとなの方々にも夢中になる一時を過ごしていただきました。

平成26年度も、おとなにも子どもにも楽しんでいただけるプレゼントを精魂込めて準備させていただきます。

完売になり入手が困難になる場合が多いチケットも、個人会員様（一口一枚）・法人会員様（一口二枚）には、無料でご準備させていただきます。

末吉 利行(音楽学部)

02 愛・知・芸術のもりから



「愛・知・芸術のもりから」コンサートは、名古屋市内一等地に位置するSMBCパーク栄での、優秀な本学卒業生・修了生たちによる音楽の発信です。

愛芸アシストの全面的なバックアップのもとで、平成25年度で4年目を迎えることができました。心より御礼申し上げます。

この企画は、卒業・修了後も地道にキャリアを積み上げていく若い才能に大きな励みを与えていただいています。

同時に、愛芸アシストの会員の方々には、声楽曲・ピアノ曲・室内楽曲・打楽器曲・管楽器曲などの幅広いジャンルの質の高い演奏をお楽しみいただいております。

今後ともに皆様の温かいご支援をいただきますよう、よろしくごお願い申し上げます。

二瓶 浩明(音楽学部・学部長)



03 愛知県立芸術大学サテライトギャラリーでの展覧会支援



「地域へ開かれた大学」を標榜する本学は、絶好の立地条件の展示会場である栄サテライトギャラリーを好条件で賃貸することが出来ており、地域への発信場所とさせていただいております。平成25年度も学内で厳選された18件の展覧会を、200日を超える開催日数で企画させていただき、3,000名を超える方々に鑑賞していただきました。

愛芸アシストの御支援を得て、無事に、サテライトギャラリーでの展覧会の運営・管理を行う事ができました。心より感謝申し上げます。

平成26年度も、素晴らしい企画をお届けいたします。美術愛好家の会員のみならず、音楽ファンの方々にも、是非、足をお運び頂きたいと存じております。

寺内 曜子(美術学部・芸術資料館長)

04 芸術資料館収蔵品展「ON 一色は匂へと colors of note」



本学の芸術資料館収蔵品展の開催は、例年、愛芸アシストの支援のもと、愛芸アシスト会員や地域の方々に大学へ足を運んでいただき、本学の収蔵資料・作品を知っていただく絶好の機会となっています。

平成25年度は、collection & moreとしてコレクションの公開だけにとどまらず、これらの活用に注目した内容で行いました。本学の収蔵資料の特色として、271点(うち楽器は122点)に及ぶ音楽資料が挙げられます。その内容は、尺八、ひちりき、笙などの和楽器、タイ、インドを中心とした民族楽器、バッハ・ボウ、スクエア・ピアノ、ヒストリカル・ハーブシコードなどの古楽器、1900年代初頭の蓄音機など多岐にわたります。本展覧会は、これら音楽資料のほかにファッツィーニ、堀内正和、土谷武らの彫刻作品、ベル・エポックポスター、ベン・シャーン、宮崎進らの版画集、能面などの民族資料等、音楽美術両学部のある本学の特色を生かしジャンルを越えた内容で構成しました。また今回は、作曲専攻作曲コース学生の協力を得て収蔵資料からインスピレーションを得た彼らの作品の展示も行い、新たな可能性を探りました。

寺内 曜子(美術学部・芸術資料館長)



05 小演劇・演奏・画像で表現する西欧文芸「エルサレム解放の夕べ」



平成22年から毎年、芸術と関係が深い西欧文芸の世界を、本学学生および国内外の大学・音楽院関係者らと連携して、芝居・演奏・絵画などで表現してきました。今回はバロック期から近代にかけての西洋芸術に多大な影響を及ぼしたトルクワート・タッソの『エルサレム解放』(1581年初版刊行)を扱いました。分野の異なる三人の本学教員が演技や演奏の合間に解説を加え、イタリアから三人の演奏家と一人の文学研究者が参画しました。千種文化小劇場のホールは210人の県民や学生で満席になり、古の十字軍の戦と恋の物語を現代に甦らせることができました。招聘したイタリア人歌手や奏者の演奏も素晴らしく、共演した音楽学部学生たちにとっては、音楽と語学の両方の面で良い刺激になりました。美術学部学生たちも慣れない芝居に挑戦し、イラスト、パネル、衣装を制作するなどしました。来場者からは「楽しめた」と同時に「学ぶことができた」という声が多く聞かれ、本企画のサブタイトルになっている「教養教育プログラム」の目的も達成されたと思います。

水野留規(音楽学部)

06 愛知県立芸術大学国際交流展「NANAIROーなないろー」



愛知県立芸術大学は、瀬戸内国際芸術祭2010につづき2回目となる瀬戸内国際芸術祭2013への参加に際し、エジンバラ大学、ロンドン芸術大学、チェンマイ大学、シラパコーン大学、台南芸術大学、ボストン美術館芸術大学の6つの海外提携校と連携する初のコラボレーション展「国際交流展ーなないろー」を企画しました。

この「国際交流展ーなないろー」では、異なる文化・歴史・個性を持つ7つの芸術大学が集い、それぞれ独自の彩を持つ作品が展示されました。これらの作品は瀬戸内国際芸術祭では、平成25年7月20日から8月18日の期間、高松市にある本学の活動拠点であるMEGIHOUSEと龍潜荘において展示され、愛知では、8月25日から9月8日の期間、本学芸術資料館及びサテライトギャラリーにおいて展示されました。

この国際交流展を契機に、本学の国際化がさらに発展し、海外提携校との学生や教員の交流が活性化されました。

寺井尚行(音楽学部・芸術創造センター長)



07 学生への公募



山田 大空 「NERD」 H25.5.28~6.2 名古屋市民ギャラリー矢田 (左から図1・図2・図3)

展示のテーマである「作品間の差異から自分自身の本質を考察」について多くの来場者の方々と対話を通じて実現することが出来ました。

今回の展示を通じての一番の成果は、「物質とイメージの関係性」を明確に自覚することが出来たという点です。

私の作品は単純なイラストレーションを刺繍という作業性の強い行為を通じて、イラストレーション以上のものへと昇華させるというプロセスを持っていると言えます。

図1の作品では、スニーカーの刺繍の部分は、刺繍が施されていない布地の画面から乖離し、刺繍という物質性を持ちながらも、なお概念的なイメージとして存在しています。

それに対して図2の作品では布を木枠に張らないこと、背景にまで刺繍が施されていることによって生じるしわ等によって、イメージは作品の持つ物質性に飲み込まれ、その概念性を失っています。

それら、双方の性質をあわせ持った作品として図3が挙げられます。木枠に張った布に背景まで刺繍が施されたこの作品は、イメージが画面から乖離することも物質として埋没することもありません。それは、木枠に張ることによって強まるイメージ性に対して背景の刺繍の靴の部分の質感(物質性)と関連性を持ち、イメージの乖離を防止しているからだといえます。結果、作品はイメージ、物質のどちらでもない新しい存在として昇華されます。

多くの方との対話の中でこのように、自身の作品に対する分析をすることが出来ました。

今後の制作では今まで、それほど自覚的ではなかった上記のような「物質とイメージの関係性」を意識して、より良質な作品を生み出すことが出来ます。

山田 大空(美術研究科 博士課程前期 油画・版画領域1年)



水野 優 「Amici del Canto 2013」 H25.7.3 長久手市文化の家

7月3日、長久手文化の家、風のホールにて、二神二郎門下生による試演会、Amici del Canto2013を開催しました。この公演は、専門に学んでいる事から、演奏会という場を設け個人の演奏技術を高めるために行いました。

門下代表が責任者となり、演奏会までに必要なものを準備し、本番を迎えました。

当日は、声楽専攻の先輩、後輩、そして一般の方がお客様として来場していただきました。

当公演を経験し、門下生一同、お客様と良い時間を共有する事ができました。

愛芸アシスト助成をいただき、心より感謝しております。ありがとうございました。

水野 優(音楽学部 声楽専攻 4年)

この展覧会は売れる絵(仮)展という題で、学生の方たちに「売れる絵」というものを考えていただくきっかけとなれどと思って企画しました。

あいちトリエンナーレ期間中のこともあり6日間で約800名の方にお越しいただき、3点の作品が売れました。

これは、大学で直接指導する機会がないものの作家活動をしていくにあたり避けては通れない「売れる絵」を制作の狙いを変えることなく売るためには、どのようなことを考えなければならないかを、意識して制作してもらい、実際にギャラリーで販売しようというものです。

出展作家やスタジオの方などと一緒に、卒業後に作品をつくって生計を立てていくためにはどのようなことが必要か、どんな作品が売れるのか、なぜこの作品は売れたのか、もしくは売れなかったのかなどディスカッションをしたりアンケートをとったりもしました。べちゃくちゃないとナゴヤにも参加しこの展覧会について多くの人の前でプレゼンテーションをしました。

日本画と油絵での売ることに対する意識の違い、ギャラリストとの関係、コレクターとの関係、收藏されるような作品と売れる作品の違い、値段の付け方、保存の問題など「売る」という言葉はアートの世界でも様々な問題を含んでいます。

このような問題をこの展覧会を通して考えていただければと思いました。

この展覧会に参加した感想や、これからの目標、なぜこの展覧会に出品しようと思ったのかをまとめたものもつくりました。様々な意見もありましたが出展者の皆さまからの感想を読んでやって良かったと心から思いました。

「売る」という問題自体大変難しいものでしたが、やってみないとわからなかったことも多くいい経験になりました。

竹中 愛咲子(美術学部 芸術学専攻 4年)



竹中 愛咲子 「売れる絵(仮)展」 H25.9.16~9.21 長者町トランジットビルディング



中安 修也 「愛知県立芸術大学音楽学部ピアノコース有志によるコンサート“Revista”」 H25.9.3 熱田文化小劇場



今回の演奏会は、大学生活4年間の集大成として、同じ志を持った同級生5人が集いあって開催したものです。2013年の1月から企画を始め、自分たちで一つの演奏会を準備するのはなかなか大変でしたが、様々な方の協力をいただきながら、無事に当日を迎えることができました。演奏会はより多くの人に気軽に会場にいらしていただきたいという思いから、入場料は無料としました。宣伝期間が短く、集客の面で懸念がありましたが、当日ご来場いただきました皆様には、心より御礼申し上げます。また機会があれば、第2回目の演奏会も開催したいと思います。今回の演奏会をきっかけに、これからも日々成長していければと思います。

中安 修也(音楽学部 器楽専攻 ピアノコース4年)



明石 真有美 「TシャツGalleryジョナサン」 H25.10.12~10.27 Archi·pel·Ago



今回、私 明石真有美と山本美晴は二人の共同制作である「TシャツGalleryジョナサン」を長久手アートフェスティバルに出品しました。長久手内のCAFEアルキペラゴさんのご協力のもと、出品作家と地域施設とのコラボレーションが実現しました。二人の作品が学外で展示されるのは今回が初めてでした。また一般の方と共に企画をするのも私たち二人にとっては初めての経験でした。

私たちに至らない点が多くあったにも関わらず、このように成功を収めることができたのは、アルキペラゴのスタッフの皆様の理解があったからだと思います。

ジョナサンはお店の敷地を大きく使ってしまう作品だったので、アルキペラゴさんにとって、普段どうりの営業ができないというリスクがありました。「お客さんに興味を持ってもらい店に足を運んでもらう。」という同じ目的があったからこそ奇跡的に叶った企画でした。

実際、このような大掛かりな企画は、長久手アートフェスティバル史上初ということでした。確かに、店舗との共同企画はお互いの利害が一致しないと実現するのは難しいです。アルキペラゴさんと打ち合わせをする中で、自分たちがやりたいことの意味や効果を伝えることの困難さを痛感しました。結果、この作品を通し多くの方と関わることができて、嬉しく思います。芸術から人は何を求めるのか、それを作家がより力強く示していくことが、地域を巻き込んだアートイベントの課題であり可能性であると感じました。

明石 真有美(美術学部 油画専攻 4年)



赤星 里奈 「Amollir 若き演奏家によるクラシックコンサート Vol.2」 H25.11.10 フィオリーレ



“Amollir～若き演奏家によるクラシックコンサート～Vol.2”は、学生が中心となって企画し、今回で2回目となり、今後も愛知県内で活動していきたいと考えております。

この演奏会は楽器、曲目のジャンルを問わず、お客様に楽しい時間を過ごしていただくことを目標にしています。コンサートの企画、運営などにまだまだ不慣れなため、チラシ作りや宣伝活動、当日の打ち合わせなど、至らぬ点多かったと思いますが、当日は雨の中、たくさんのお客様にご来場いただくことができました。また、終演後のティータイムを設けたことにより、お客様とお話することができ、演奏についての感想や次回もまた来たいという声も聞くことができ、嬉しく思うとともに、お客様をはじめ、周りの方々に支えられているということを改めて実感しました。

このコンサートから学んだたくさんのお話を糧に、これからも精進していきたいと思います。

赤星 里奈(音楽学部 器楽専攻 ピアノコース 4年)



相川 風子 「くらくてしるい」 H25.12.22~12.28 上越市立高田図書館 小川未明文学館 市民ギャラリー



2013年12月22日から28日の6日間、油画や彫刻、写真、陶芸を学ぶ6名(他大学生含む)による企画展を開催しました。ジャンルを越えた約70点の作品が展示され、計460名の方々が足を運んで下さいました。

開催地は新潟県上越市で、今回の展示はここから巣立っていった6名によって企画されました。メンバーに共通したふるさとを意識した作品も出品され、地元の方からの反響も大きかったです。

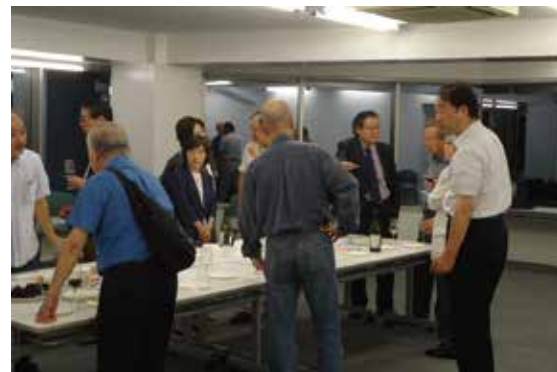
私たちの地元は都市部に比べて、芸術関連の施設は決して多くはありません。ですが、多くの方が芸術に関心を寄せ、真剣に批評を下さることを、おこがましい言い方もしませんが、とても嬉しく感じました。

展示を終えて、それぞれが次の課題を見据えていると思います。まだまだ成長段階の私たちに、発表の場という貴重な経験をさせてもらったのだと思って、これからの制作活動に励みたいです。

相川 風子(美術学部 油画専攻 3年)



08 展覧会イベント(ギャラリートーク・学生支援行事)の開催



従来の愛芸アシスト会員の方々へのご招待は、オペラ・愛知芸術のもりから・演奏会など音楽系イベントが中心でしたが、平成25年度は、新企画として美術系イベントでの会員への特典を実施しました。

9月20日から10月13日、サテライトギャラリーで「鬼頭鍋三郎版画展」を開催した際、愛芸アシスト会員の方々をサテライトギャラリーにご招待し、私が作家・作品解説を中心としたお話をさせていただきました。その後開催した交流会は、愛芸アシスト会員・愛芸アシスト役員・教員の親睦を深めると共に、会員の方々のご支援への謝意を表すものでした。

今後もこのような機会を通じて、会員の方々へ芸術を通じて、直接、お話しする時間を持ちたいと考えております。

山本 富章(美術学部)

平成26年3月、初めての企画として「美術学部卒業・修了生と美術関係者による交流親睦会」をサテライトギャラリーで開催させていただきました。予想を大きく上回る合計80名を超える方々にご参加いただき、大いに盛り上がった有意義な企画となりました。学生の作品に興味がおありの方、一度作者と話がしたいという美術関係の方々などが、学生と接することができる場となりました。

一方、学生は、今までは大学と言う云わば「傘」の下で研究・創造活動をしてきたわけですが、卒業・修了後は、自分自身で表現者としての道を切り拓いていく事になります。学生にとっては、学外の美術関係の方々が大いに自己PRをしていく機会であり、同時に、自らの作品に興味を持ってもらえる方々と出会い、作家生活を続けていく端緒になると共に、わずかでも自信をもつことのできる機会になりました。

本年度も、この企画をより充実した形で継承していきたく考えています。

山本 富章(美術学部)



09 芸術祭での講演会



愛芸アシストは、芸術祭実行委員会とタイアップし、内外で活躍されているOB・OGの方々による講演会の開催を、毎年、支援してきました。今では、学生が大いなる刺激を受けることが出来る、芸術祭に欠かすことの出来ないイベントとして定着しています。

今後は、芸術祭実行委員会の声もあり、講師の幅をさらに大きくし、芸術家を目指す若者たちへ新たな問題提起をしていきたいと考えています。

愛芸アシスト事務局

10 干支展



	テーマ	出展数	販売数	入場者	開催期間
平成22年	兔	54	30	213	12月3日～11日
平成23年	辰	64	38	238	11月17日～27日
平成24年	巳	102	48	175	11月3日～11日
平成25年	午	71	44	206	11月16日～24日

平成26年度 愛芸アシスト 支援事業案

01 オペラ公演 「サンドリヨン」(シンデレラ) 250万円

平成26年12月6日(土)、7日(日)に長久手市文化の家にて、12月13日(土)知立市文化会館(パティオ池鯉鮒)にて、ジュール・マスネ作曲「サンドリヨン」(シンデレラ)を公演します。

音楽を担当する音楽学部と舞台美術を担当する美術学部(本年度は、油画専攻が担当)が一体となった、総合芸術大学ならではの本格的オペラ公演を、愛芸アシスト会員の方々や地元の方々にもお楽しみいただきます。
なお、知立市での公演に先立ち、地元のこどもたちに一部を公開する予定です。

02 愛・知・芸術のもりから 120万円

平成26年4月から平成27年3月まで毎月、SMBCパーク栄にて、愛知芸大の卒業生・修了生による演奏会を開催します。
サテライトギャラリーが、名古屋市中心の栄での愛知芸大の美術の発信基地であるのなら、SMBCパーク栄は、音楽のそれであると言えます。多くの愛芸アシスト会員の方々にも楽しんでいただいています。

03 サテライトギャラリーでの展覧会支援 100万円

平成26年4月開催の城戸保「ある風景」展を皮切りに、本年度も栄のサテライトギャラリーでは、年間20回程度の様々な展覧会を開催します。その中には、愛芸アシスト会員の皆様にお馴染みの「干支展」も含まれています。
サテライトギャラリーでの展覧会には、毎年3,000名を超える方々に来場していただいています。愛芸アシストの支援をいただき無事に運営を続けています。

04 卒業・修了制作展への支援 50万円

平成27年3月に、愛知県美術館と愛知芸大芸術資料館にて、美術学部・美術研究科の卒業・修了制作展を開催します。卒業・修了制作展は、オペラ公演と並ぶ、もうひとつの大きなイベントとも言えます。愛芸アシスト会員の方々の中にも、若々しい才能の息吹を直に作品から感じていただいた方々も多いと思います。
卒制展に合わせて、卒業生・修了生と美術関係者による交流会も開催し、一表現者として、彼らが実社会へ出て自ら道を切り拓く第一歩への支援を行います。

05 学生への公募 30万円

愛知芸大生の展覧会や小規模の演奏会などを対象に、学生から上げられた対外的な企画を審議し妥当と認めたものには、一部の活動資金を支援しています。
本年度は3年目になりますが、年を追うごとに、意欲的な企画が寄せられるようになりました。

06 芸術資料館での企画展の支援 20万円

平成26年4月22日(火)から5月14日(水)に愛知芸大芸術資料館で本年度の収蔵品展「私のお気に入り -MY FAVORITE THINGS-」を開催します。
愛芸アシストは毎年収蔵品展を支援していますが、本年度は教員によるセレクト展です。芸術家として、また、教員としての視点によって、1,400点以上の収蔵資料から選出された「お気に入り」を約90点展示いたします。

07 「芸術祭」での講演会 15万円

平成26年10月31日(金)から11月2日(日)に愛知芸大で開催される「芸術祭」に、芸術祭実行委員会と連携をとり、招聘の要望のあった講演者に来学していただきます。
「学内にいながら、“学外”の声を聴く格好の機会」と学生からも好評を得ています。

08 展覧会イベント 10万円

平成25年度より開始した美術系イベントでの愛芸アシスト会員への特典です。
愛芸アシスト会員をサテライトギャラリーにご招待し、愛知芸大教員や学生が展示作品にちなんだアーティストトークを行い、その後、懇談の機会を持ちます。

09 干支展

平成26年11月サテライトギャラリーにて、愛芸アシストの主催事業として愛芸アシスト会員の方にはすっかりおなじみになった干支展を開催します。
一般公開の前日には、愛芸アシスト会員限定の内覧会を開催し、一般の方々より一足早く学生の力作を購入していただけます。同時に、愛知芸大教員などの愛芸アシスト理事を交えての交流会も開催します。

10 予備費 5万円

合計 600万円(愛芸アシスト・賛助金を合わせて)

